

# 日田条里大原地区

2004年

日田市教育委員会

## 序 文

日田条里大原地区は日田盆地の中央部に位置します。日田市内ではこれまで、市街地周辺の発掘調査が多く行われてきましたが、近年、市街地中心部における宅地造成やアパート建設に伴う発掘調査が増加してきています。

日田条里大原地区も市街地中心部に位置し、弥生時代から古代に至る遺構や遺物が発見され、この地域における遺跡の様相も次第に明らかになりつつあります。

本書が、文化財の保護や地域の歴史、学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました事業者や地権者の方、ならびに作業に従事いただきました地元の皆様方に対して、心から厚くお礼を申し上げます。

平成16年2月

日田市教育委員会

教育長 謙山康雄

## 例　　言

1. 本書は日田市教育委員会が平成11年度に実施した日田条里大原地区の発掘調査報告書である。
2. 調査は、当委員会が共同住宅建設工事に伴い、相良晴枝氏の委託業務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3. 調査にあたっては地権者の相良晴枝氏、平倉建設株式会社の協力を得た。
4. 調査現場での実測、写真撮影は若杉が行った。
5. 本書に掲載した遺物実測ならびに遺構・遺物の製図は若杉が行った。
6. 遺物の写真撮影は長谷川正美氏（有限会社 雅企画）による。
7. 掘図中の方位、文中の方位角は真北を示す。
8. 写真図版の遺物に付した数字番号は、挿図番号に対応する。
9. 出土遺物および図面、写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
10. 本書の執筆・編集は若杉が行った。



日田市の位置

## 本文目次

I 調査に至る経過と組織 .....	1
(1) 調査の経緯 .....	1
(2) 調査の組織 .....	1
II 遺跡の立地と環境 .....	2
III 調査の内容 .....	4
(1) 調査の概要 .....	4
(2) 遺構と遺物 .....	4
IV まとめ .....	7

## 挿図目次

第1図	周辺遺跡分布図 (1/10,000)	3
第2図	遺跡周辺図 (1/5,000)	4
第3図	遺構配置図 (1/150)	4
第4図	1号竪穴遺構 (1/60) 及び出土遺物実測図 (1/3)	5
第5図	土坑実測図 (1/40)	5
第6図	2号土坑出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	6
第7図	柱穴出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	6
第8図	包含層および表土一括出土遺物実測図 (1/3, 1/4)	6

## 表目次

第1表	出土土器観察表	8
-----	---------	---

## 写真図版目次

写真図版1	1段目左	遺跡全景 (南西より)
	1段目右	遺跡全景 (真上より)
	2段目左	1号竪穴遺構 (真上より)
	2段目右	1号竪穴遺構 (北西より)
	3段目左	1号土坑 (北東より)
	3段目右	2号土坑 (北西より)
	4段目	作業風景
写真図版2		出土遺物

## I 調査に至る経過と組織

### (1) 調査の経緯

平成11年9月28日付で相良晴枝氏より大字田島字大原158番地ほかにおけるアパート建設に伴う埋蔵文化財の所在の有無についての照会文書が提出された。当初、事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地（日田条里遺跡）に該当するものの、過去に区画整理事業が行われ、遺構の存在する可能性が低いこと、また盛土工法で工事を行うことから許可を出す予定にしていた。しかし、その後のボーリング調査で掘削が地表下1.5mまで及ぶことになり工法が変更となった。そのため、試掘調査を実施する旨を事業者に伝え、同年10月19日に試掘調査を行った。その結果、当初の予想に反して弥生時代から古墳時代にかけての遺構・遺物が確認されることから事業者と発掘調査についての協議を行った。工法変更が困難とのことから工事設計書の提出後、調査対象面積は遺構面を掘削する建物部分の約300m<sup>2</sup>とし、平成12年2月から3月にかけて調査を行うことで合意に達した。平成12年2月2日に協議書および委託契約書を交わし、平成12年2月8日より発掘調査を開始し、3月8日に終了した。また、報告書印刷については諸事情により遅れが生じ、平成15年11月10日に委託契約書を交わし、その作成、印刷を行った。

発掘調査は2月8日より重機による表土剥ぎを開始した。遺構検出作業、掘下げを行ったが、降雪のため、作業を中断することがしばしば起きた。作業と平行して実測・写真撮影を行い、3月2日に空撮を行った。その後、下層の確認のためトレンチを設定し掘り下げた。その結果、遺物の存在は認められたが、遺構は存在しなかった。3月8日には器材を撤収し、発掘調査を終了した。また、調査区に隣接する北西側において、個人住宅建設に伴う発掘調査が平行して行われたことから、本調査区を1次、隣接する調査区を2次とした。

### (2) 調査組織

平成11年度／試掘調査・発掘調査

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 加藤 正俊（日田市教育委員会教育長）

調査事務 原田 俊隆（同文化課長） 石井 英信（同文化課課長補佐兼文化財係長）

佐々木豊文（同文化課主査） 美野寿美香（同文化課臨時職員）

調査員 土居 和幸（同文化課主任） 行時 志郎（同文化課主任） 試掘調査担当

吉田 博嗣（同文化課主任） 若杉 竜太（同文化課主査） 発掘調査担当

五十川雄也（同文化課嘱託）

調査作業員 石田 和也 杉森 久恵 田中 雅子 長岡 大輔 中村 邦宏

藤原 太一 森島晋太郎

平成15年度／報告書作成

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 後藤 元晴（日田市教育委員会教育長）～7月31日

諫山 康雄（同教育長）8月1日～

調査事務 後藤 清（同文化課長） 佐藤 晃（同文化課主幹兼埋蔵文化財係長）

園田恭一郎（同文化課主査） 酒井 恵（同文化課主事補）

報告書担当 若杉 竜太（同文化課主査）

調査員 土居 和幸（同文化課主査） 行時 桂子（同文化課主任） 渡邊 隆行（同文化課主事）

## II 遺跡の立地と環境（第1図）

遺跡は盆地中央部の沖積地に位置する。遺跡周辺は昭和40～50年代にかけての区画整理事業により、宅地が密集し、一部に水田が残っている程度である。そのため、旧地形は判然としないが、遺跡の南東約500mにある会所山の裾から延びる微高地であったと思われる。

本遺跡周辺では近年、市道建設や宅地造成などに伴う発掘調査が増加してきている。会所宮丘陵の南側に位置する田島遺跡<sup>1)</sup>の調査では弥生土器片などが出土したが、遺構は確認されなかった。また丘陵北側の会所宮遺跡<sup>2)</sup>では弥生時代から中世の遺構が確認されている。

さらに丘陵上には、鳥羽塚古墳、会所宮古墳、後山古墳などの6世紀代の円墳が存在する。

会所宮丘陵北側に位置する大波羅丘陵の西側裾に位置する大波羅遺跡<sup>3)</sup>では、弥生時代から古代にかけての遺構が確認され、古代の流路からは「山」銘の墨書き土器、また包含層からは「田」銘の墨書き土器<sup>4)</sup>が出土している。またこの丘陵上には古墳時代の石蓋土坑墓が確認された赤追遺跡<sup>5)</sup>、その南側には箱式石棺を主体とする径35mの円墳である菜師堂山古墳<sup>6)</sup>が存在する。

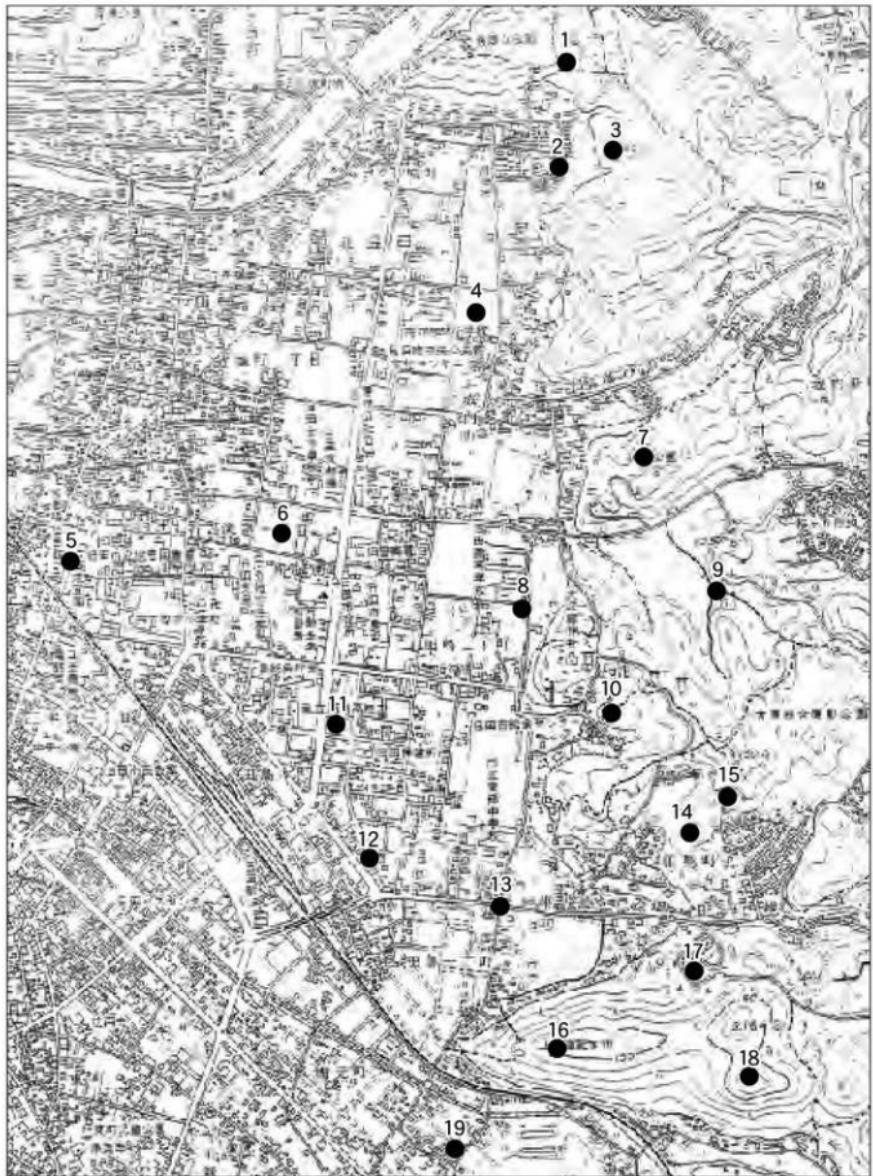
また、遺跡の北約200mの沖積地上に位置する日田条里飛矢地区<sup>7)</sup>では弥生時代から古代の集落が確認されている。さらにその北北東約500mにある日田条里四反畠地区<sup>8)</sup>では古代から近世にかけての集落や水田層が確認されている。

大波羅丘陵北側にある慈眼山の周辺では、上ノ馬場遺跡<sup>9)</sup>で古墳時代の溝のほか、中世の溝や土坑、井戸跡、柱穴などが確認されている。また、慈眼山瀬戸口遺跡<sup>10)</sup>の調査では古代から中世の遺構、遺物が見つかっている。古代の遺構としては8世紀前半頃の井戸跡から墨書き土器が出土している。中世には建物群を囲む溝が検出されており、中世日田を治めた大蔵氏の居城である大蔵古城跡との深い関連を考えられる。

このように古代から中世にかけて、日田を治めた有力者に関連すると考えられる遺跡が大蔵古城跡から慈眼山瀬戸口遺跡、上ノ馬場遺跡、大波羅遺跡と、慈眼山から会所山へ続く丘陵の裾に沿って連なるように存在しており、この時代の日田の支配層の動向を考える上では重要な地域といえる。

### 註

- 1) 土居和幸編『日田地区遺跡群発掘調査概報』Ⅱ・Ⅲ 日田市教育委員会 1987・1988
- 2) 土居和幸他編『会所宮遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第11集 日田市教育委員会 1995
- 3) 渡邊隆行他編『大波羅遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第29集 日田市教育委員会 2001
- 4) 行時志郎他編『赤追遺跡』『日田市埋蔵文化財年報』平成5・8年度 日田市教育委員会 1995・1998
- 5) 若杉竜太他編『日田条里飛矢地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第40集 日田市教育委員会 2003
- 6) 土居和幸編『日田条里四反畠地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第46集 日田市教育委員会 2003
- 7) 行時志郎編『上ノ馬場遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第22集 日田市教育委員会 2000
- 8) 坂本嘉弘編『慈眼山瀬戸口遺跡』大分県教育委員会 1992年



- |            |             |             |           |          |
|------------|-------------|-------------|-----------|----------|
| 1 大藏古跡跡    | 5 史跡成宜園跡    | 9 赤迫遺跡      | 13 会所宮遺跡  | 17 後山古墳  |
| 2 慈眼山瀬戸口遺跡 | 6 日田条里四反畑地区 | 10 菓師堂山古墳   | 14 丸尾古墳   | 18 会所山古墳 |
| 3 丸山古墳     | 7 堤城跡       | 11 日田条里飛矢地区 | 15 丸尾神社古墳 |          |
| 4 上ノ馬場遺跡   | 8 大波羅遺跡     | 12 日田条里大原地区 | 16 鳥羽塚古墳  | 19 田島遺跡  |

第1図 周辺遺跡分布図 (1/10,000)

### III 調査の内容

#### (1) 調査の概要

調査区内で検出された遺構は竪穴遺構1基、土坑3基、柱穴である。これらの遺構は現水田の盤土下、10cmほどで検出された黄褐色砂質土に掘り込まれ、埋土は暗褐色を呈し、古墳時代から古代にかけてのものである。ただ、この黄褐色土も地山ではなく調査区の一部にトレーナーを設定して下層の確認を行った結果、弥生土器などが出土したが、遺構は確認されなかったことからこの下層は弥生～古墳時代の包含層の可能性が考えられる。



第2図 遺跡周辺図 (1/5,000)

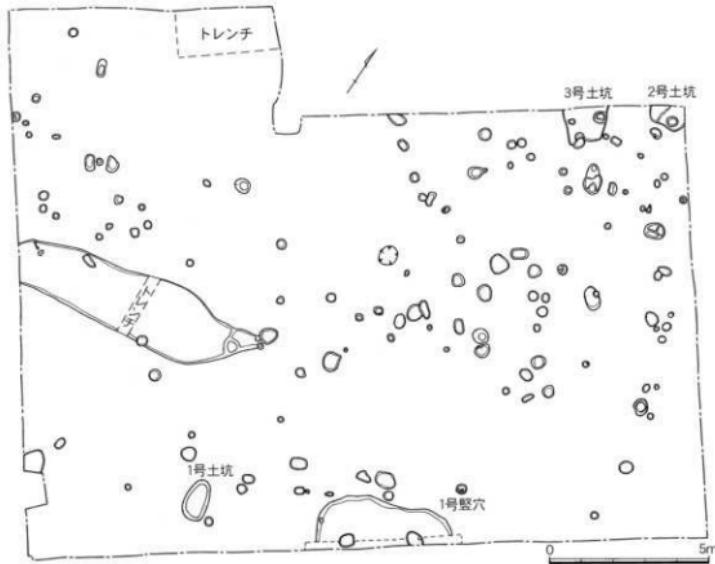
#### (2) 遺構と遺物 (第3図)

調査では竪穴遺構1基、土坑3基、柱穴多数が検出された。

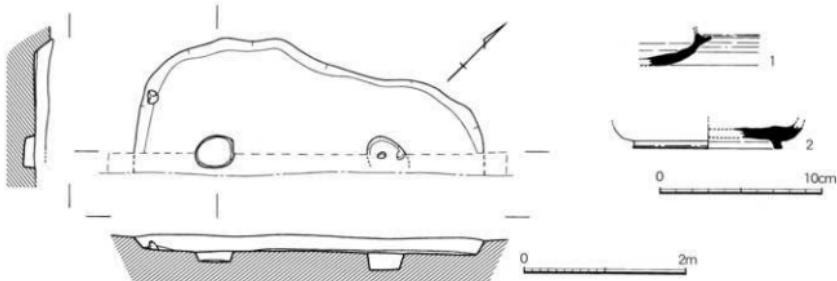
##### 1号竪穴遺構 (第4図、図版2)

調査区の南東側の壁際の中央付近で検出された。規模は調査区壁際で幅4.35m、深さ25cmを測る。平面形が不定形であることや内部の柱穴は、深さ12～21cmと主柱穴とするには深さが浅いことから住居跡と認定するには根拠が乏しいため、ここでは、竪穴遺構としている。

埋土中より須恵器が出土した。1は杯身の破片である。口縁部先端は欠損している。2は須恵器の高台付楕で高台は楕部立ち上がりよりやや内側につく。



第3図 遺構配置図 (1/150)



第4図 1号竪穴遺構 (1/60) 及び出土遺物実測図

### 1号土坑 (第5図)

調査区南側で検出された。平面形は楕円形を呈し、検出面での規模は長軸1.32m、短軸0.76m、深さ14cmである。遺物は出土しなかった。

### 2号土坑 (第5図、図版1)

調査区北側隅で検出された。平面形は不定形で規模は長軸1.12m +  $\alpha$ 、短軸0.8m +  $\alpha$ 、深さは最も深いところで56cmであり、調査区外へ広がる。土坑内のピットは後世の掘り込みと考えられる。

埋土中からは土師器壺・壺、須恵器杯身などが出土した。1は須恵器杯身である。一部に自然釉が付着する。2は土師器壺の口縁である。外器面の一部に煤が付着する。3は土師器壺である。外器面はハケ後、口縁部から頸部にかけて、ナデを施している。ハケの密度は粗い。これらの遺物からこの土坑の時期は6世紀前半から中頃と考えられる。

### 3号土坑 (第5図)

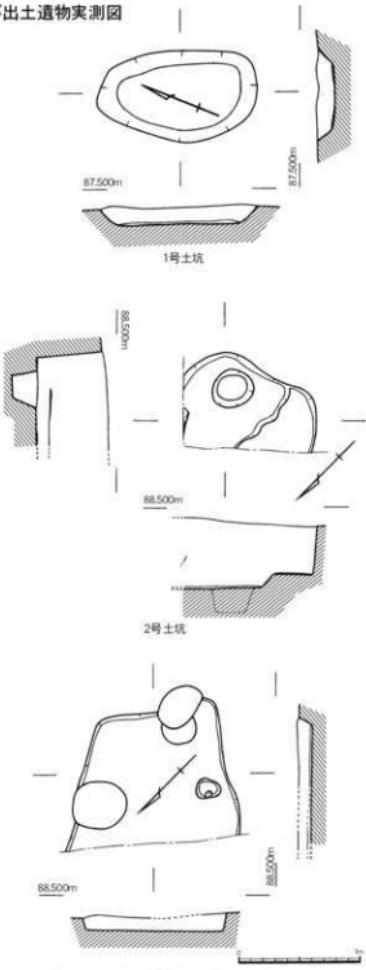
調査区北側の2号土坑の北東2mで検出された。平面形は長方形を呈すると思われ、検出面での規模は長軸0.88m +  $\alpha$ 、短軸1.2m、深さは16cmである。遺物は土師器片が出土した。

### 柱穴出土遺物 (第7図、図版2)

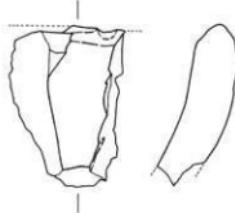
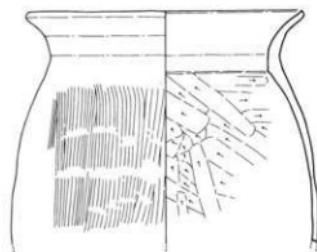
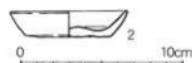
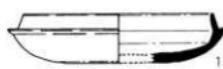
1は瓦質土器の擂鉢の口縁部と考えられる。P1より出土。2は土師質土器の小皿である。P2より出土。底部は回転ヘラ切りで一部、当て具痕が見られる。3は石鍋か。凝灰岩製で、口縁部の一部に煤が付着している。

### 包含層および表土一括出土遺物 (第8図、図版2)

ここで述べる遺物は調査の概要で述べた包含層出土遺物(1~5)、ならび表土剥ぎ・遺構検出時に出土した遺物(7~15)を表土一括出土遺物としている。



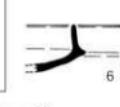
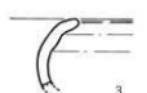
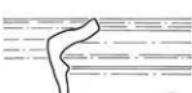
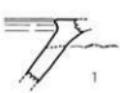
第5図 土坑実測図 (1/40)



0 10cm

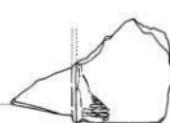
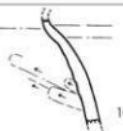
第6図 2号土坑出土遺物実測図 (1/3, 1/4)

第7図 柱穴出土実測図 (1/3, 1/4)



包含層出土遺物

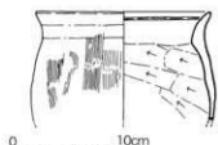
12



10

14

15



表土一括出土遺物

0 10cm

第8図 包含層および表土一括出土遺物実測図 (1/3, 1/4)

9は弥生土器の高杯の口縁部である。内外面ともに丹塗りである。2・3は弥生土器の甕口縁部である。2は頸部に断面三角形の突帯を1条有する、口縁部内面はわずかではあるが、跳ね上げている。3は外器面に横ナデを施す。4・5は弥生土器の甕底部である。4の底面はやや上げ底気味で、ハケを施している。5はほぼ平底である。14は須恵器の杯身である。底部は回転ヘラ切りである。7・8は須恵器杯蓋である。7は内器面は回転ナデ後、上半部に一部不整方向のナデを施す。8は外器面の一部に

は自然軸が付着する。9は須恵器杯身である。外器面の一部には自然軸が付着する。10は土師器の表胴部である。内器面にはケズリが見られる。11は土師器甕である。内面は胴部にケズリ、口縁部にヨコナデを施し、その上部に1条の沈線が見られる。12は土師質土器小皿である。底面近くでは不整方向のナデが見られる。13・14は土師器椀である。13は外器面には回転ヘラケズリ、内器面には回転ナデを施す。22は外器面に回転ヘラケズリを施すが、内器面は摩耗のため、不明瞭である。15は軒平瓦片である。外面には一部にタタキ目が、内面には布目痕が見られる。

#### IV まとめ

今回の調査では、竪穴遺構1基、土坑3基、その他柱穴が検出された。

1号竪穴遺構出土の須恵器杯身はかえりの先端が欠損しているものの、かえりがやや内傾している点や杯の深さなどから、陶邑編年のMT85～TK43の時期<sup>11)</sup>、6世紀後半、また高台付椀は高台の貼り付け位置が内側になっていることから、8世紀頃のものと考えられる。その時期については層位的に出土遺物を確認していなかったこともあり、ここでは8世紀以前の遺構として考えておきたい。

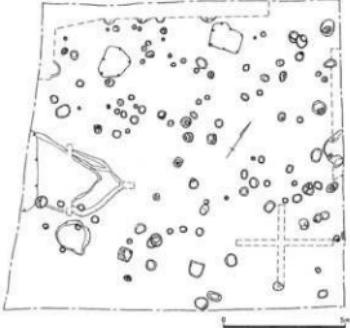
土坑については、3基のうち2・3号土坑から遺物が出土している。2号土坑の須恵器杯身はかえりの立ち上がりやその内面に形骸化した段が見られること、また、土師器甕についても口縁部が大きく外反する点などから6世紀前半から中頃と考えられる。また3号土坑からは土師器皿が出土しており、2号土坑に近接し、埋土が類似していることから同時期の可能性が考えられる。

弥生時代中期～古墳時代の包含層より出土した弥生土器の甕の口縁は中期前半～中頃と考えられ、またP2から出土した土師質土器の小皿は底部の切り離しが回転ヘラ切りである点、口径が7cmと小さいものであることなどから10世紀前半頃のものと考えられる。柱穴から出土した石鍋・瓦器、包含層出土の瓦については中世以降の遺物が確認されてないことから、その年代の下限は土師器皿と同じく、10世紀前半代と考えられる。また、他の須恵器・土師器についても6世紀代のものが中心と考えられる。

次に本遺跡周辺で調査された遺跡との比較の中で遺跡の形成過程について、触れていくたい。

弥生時代の遺構は本調査区では確認されなかつたが隣接する2次調査区で中期中頃～後半の竪穴遺構が確認されている。また、遺跡の東約500mに位置する会所宮遺跡では中期前半代の集落が確認されており、本遺跡で出土した甕と時期を同じにすることが注目される。本調査区では2次調査区と合わせても確認されている遺構は少なく、同時期の河川の氾濫などによる東側の微高地からの流れ込んだ可能性も考えられる。また、遺構検出面の砂層は会所山丘陵の南側で行われた田島遺跡の試掘調査でも確認され、さらに本遺跡の北に位置する日田条里飛矢地区では弥生時代から遺構が確認されていることから、会所山丘陵を取り巻くように氾濫原が広がり、その周辺に微高地が点々と所在していたものと想定され、これらの微高地に集落が存在していた可能性が考えられる。

古墳時代後期は、日田条里飛矢地区で竪穴住居跡、会所宮遺跡・大波羅遺跡で溝や流路が確認されている程度である。しかし、会所山丘陵ではこの時期に比定される鳥羽塚古墳が存在しており、周辺の沖積地に集落が営ま



第9図 日田条里大原地区2次遺構配置図(1/200)

れていた可能性は十分に考えられる。その後、古墳時代終末期から古代にかけて、周辺では当該期の遺構が増加する。<sup>5)</sup> 日田条里飛矢地区では7世紀前半～中頃の溝、また大波羅遺跡では8世紀代の須恵器杯・蓋を大量に出土した包含層。9～10世紀代の区画溝に伴う建物が確認されている。

さらに日田条里四反畠地区では、古代の水田層が確認され、この時期に整備された条里制と深い関連が指摘されている。本遺跡ではこの時期の明確な遺構は確認されていないものの、住居からは8世紀中頃～後半頃の須恵器高台付椀が出土しており、この時期の集落の存在が想定される。また10世紀前半代の土師器皿が出土している。こうしたことから古墳時代後期以降にはこの一帯が氾濫を受けることなく、比較的安定した平地なったため、集落が多く存在するようになった可能性が考えられる。

中世以降については遺物・遺構が確認されてなく、詳細は不明である。遺構面上層で確認された水田層は1枚のみであり、長期間にわたる水田耕作の痕跡は認め難い。これは近年の区画整理事業に伴う削平によるものと考えられる。しかし、日田条里四反畠地区、同飛矢地区では水田や中世の遺物も確認されており、本遺跡周辺でもそれらの遺構が存在した可能性がある。

#### 註

- 1) 田邊昭三『邑邑古窯址群』研究論集第10号 平安学園考古クラブ 1966ほか
- 2) 土居和幸他編『会所宮遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第11集 日田市教育委員会 1995
- 3) 土居和幸編『田島遺跡』『日田地区遺跡群発掘調査概報』Ⅱ・Ⅲ 日田市教育委員会 1987・1988
- 4) 若杉竜太他編『日田条里飛矢地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第40集 日田市教育委員会 2003
- 5) 渡邊隆行他編『大波羅遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第29集 日田市教育委員会 2001
- 6) 土居和幸編『日田条里四反畠地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第46集 日田市教育委員会 2003

第1表 出土土器観察表

鉢団番号	区名	種別	器種	法量		調整		胎土	焼成	色調		備考	
				口径	副部径	底径	器高	外面	内面	外 面	内 面		
第4団-1	1住	須恵	环身	—	—	—	(2.0)	回転ヘラケズリ	回転ナデ	CH	良好	灰黒色	灰黒色
第4団-2	1住	須恵	环	—	—	(9.2)	(1.5)	回転ナデ	回転ナデ 不正方角ナデ	C	良好	灰白色	灰白色
第6団-1	2土	須恵	环身	(10.6)	—	—	3.0	回転ヘラケズリ	回転ナデ 不正方角ナデ	AH	良好	灰白色	灰白色
第6団-2	2土	土師	壺	—	—	—	(4.5)	不明	指押さえ	AC	良好	淡褐色	淡褐色
第6団-3	2土	土師	甕	(22.8)	—	—	(19.0)	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	AC	不良	淡褐色	淡褐色
第7団-1	P1	瓦器	插鉢	—	—	—	(2.1)	—	ハケ	BD	良好	灰白色	灰白色
第7団-2	P2	土師	小皿	7.2	—	—	1.6	回転ヘラケズリ 回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転ナデ	ACG	良好	暗赤褐色	暗赤褐色
第8団-1	包含層	弥生	高環	—	—	—	(5.2)	ナデ	ナデ	CGH	良好	淡赤褐色	淡赤褐色
第8団-2	包含層	弥生	甕	—	—	—	(7.0)	ナデ	ハケ	ACG	やや不良	淡黄褐色	淡黄褐色
第8団-3	包含層	土師	甕	—	—	—	(5.8)	ナデ	ナデ	CH	不良	淡黄褐色	淡黄褐色
第8団-4	包含層	弥生	甕	—	—	—	(7.1)	ハケ・ナデ	指押さえ	CGH	良好	淡赤褐色	淡茶褐色
第8団-5	包含層	弥生	甕	—	—	—	(7.8)	(1.6)	不明	CG	良好	淡黄褐色	淡黄褐色
第8団-6	表土	須恵	环身	—	—	—	(2.9)	回転ナデ	回転ヘラケズリ 回転ナデ	CG	良好	灰黒色	灰黒色
第8団-7	表土	須恵	环蓋	(13.6)	—	—	2.6	回転ヘラケズリ	回転ナデ 不正方角ナデ	AH	不良	灰白色	灰白色
第8団-8	表土	須恵	环蓋	(14.2)	—	—	3.9	回転ヘラケズリ	回転ナデ 不正方角ナデ	AH	良好	灰白色	灰白色
第8団-9	表土	須恵	环身	(11.0)	—	—	4.1	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	AH	良好	灰白色	灰白色
第8団-10	表土	土師	甕	—	—	—	(8.8)	不明	ケズリ	ABCE	良好	暗黄褐色	暗黄褐色
第8団-11	表土	土師	甕	(14.2)	(15.0)	—	(8.9)	ハケ・ナデ	ケズリ・ナデ	BC	良好	淡褐色	淡褐色
第8団-12	表土	土師	小皿	(8.4)	—	—	2.2	回転ヘラケズリ	回転ナデ	ADG	良好	椭暗赤褐色	椭暗赤褐色
第8団-13	表土	土師	楕	(13.0)	—	—	(4.5)	回転ヘラケズリ	回転ナデ	AH	良好	淡赤褐色	淡赤褐色
第8団-14	表土	土師	楕	(16.6)	—	—	6.2	回転ヘラケズリ	不明	ACh	良好	赤褐色	赤褐色

法量の単位はcm ( ) は現存長。

胎土：A角閃石 B石英 C長石 D赤色粒子 E白色粒子 F黒色粒子 G雲母 H砂粒



遺跡全景（南西より）



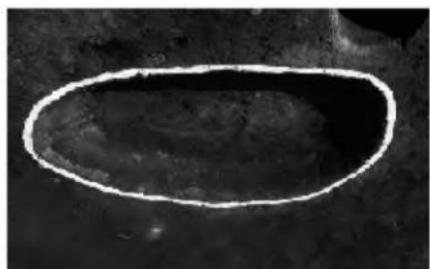
遺跡全景（真上より）



1号竪穴遺構（真上より）



1号竪穴遺構（北西より）



1号土坑（北東より）



2号土坑（北西より）

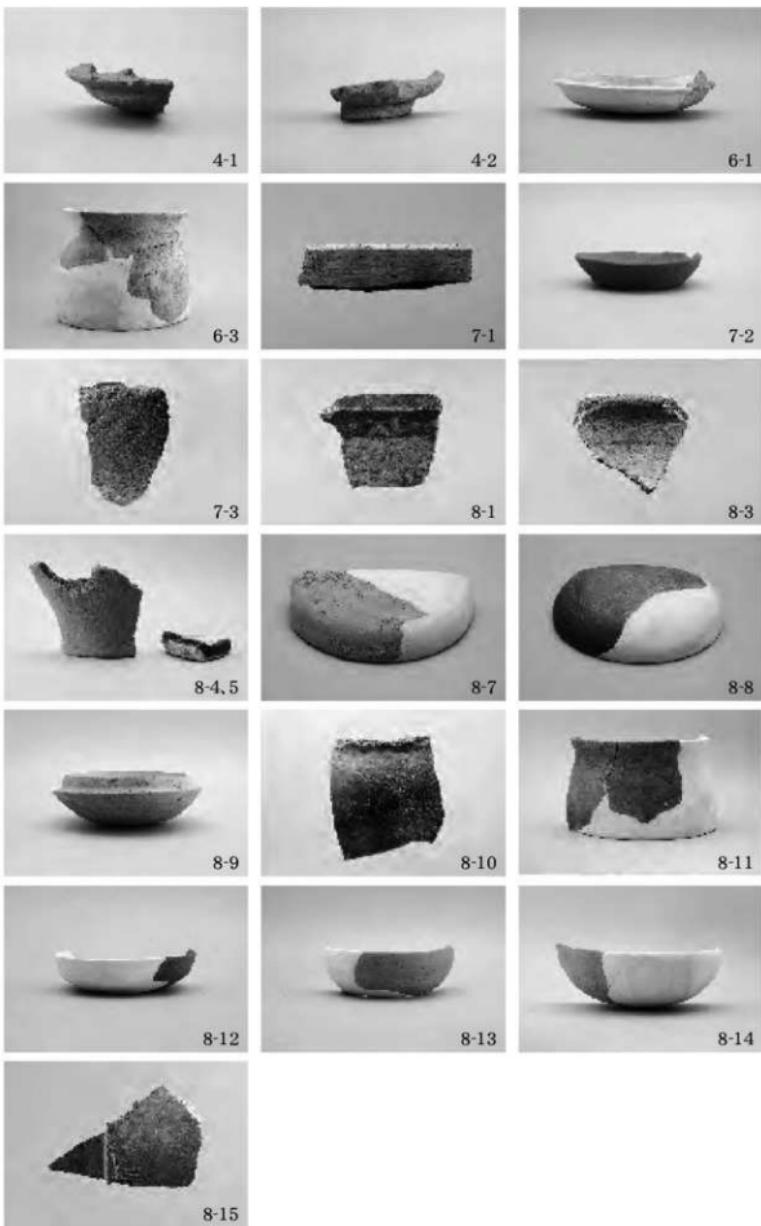


作業風景



作業風景

図版2



## 報告書抄録

ふりがな	ひたじょうりおおはらちく
書名	日田条里大原地区
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	47
編著者名	若杉竜太
編集機関	日田市教育委員会文化課
所在地	〒877-0077 日田市南友田町516-1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601 日田市田島2-6-1
発行年月日	2004年2月29日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
日田条里 大原地区	大分県日田市 大字田島字大原 158番地ほか	44204-6	65	33°56'28"	130°19'01"	20000208 ~20000308	300m <sup>2</sup>	集合住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
日田条里 大原地区	集落跡	弥生 古墳 古代 中世	土坑 竖穴遺構、柱穴	弥生土器 須恵器、土師器 土師質土器皿 石鍋	

## 日田条里大原地区

日田市埋蔵文化財調査報告書第47集

2004年2月29日

編 集　日田市教育委員会 文化課  
〒877-0077 大分県日田市南友田町516-1

発 行　日田市教育委員会  
〒877-8601 大分県日田市田島2-6-1

印 刷　尾花印刷有限会社  
〒877-0026 大分県日田市田島本町8-8